

令和8年度入学生

静岡学園中学校 学習のしおり

中学校 3 年間で学ぶ教科・科目のシラバス(授業計画)を記載しています。

この中には、各教科・科目名、単位数、使用する教科書、副教材、学習到達目標、評価の観点と方法、学習内容などが書かれています。これから始まる授業をイメージするため、また、事前に準備しておくことよいことを知るために、ぜひ活用してください。

1. 静岡学園中学生に求めるもの

新入生の皆さん、静岡学園中学校へようこそ。さあ、これからの6年間、そしてその後もずっと続く大きな可能性に満ちた未来へのスタートです。自分らしく生き生きと学校生活を送り、いろいろなことにチャレンジし、多くの経験を通じて幅広い人間力を身につけていきましょう。

これから皆さんは小学校時代の児童という呼び名ではなく、生徒と呼ばれます。高校を卒業するまで同じです。また、授業の担当教員も教科ごとに違い、小学校の担任の先生のようにひとりの先生にいくつもの教科で教わるということはあまりありません。これは高校・大学と同じです。つまり中学校時代は、大人になるための取り組みが始まる大切な時期といえるのです。

それでは毎日を家庭や学校で過ごすにあたって必ず守ってほしいことを示します。

1. 規則正しい生活を送る (きちんと睡眠時間をとり、毎日自分で気持ちよく起きられるような生活を送る)
2. 学習習慣を身につける (学校での授業はもちろん、家庭でも当然の事として毎日必ず学習に取り組む)
3. 身の回りの整理整頓 (自分のものは責任をもって自分で大切に管理でき、周りの人に迷惑をかけない)

どうでしょうか。どれもできて当然でしょうか。大丈夫という君、高い志を持ってどんどん伸びていきましょう。自信を持ってそうであるといえない君、まずこの3つを意識して毎日の生活を送って下さい。静岡学園中学校では、みなさんに対して、これらができる一人前の中学生であると見なして接していきます。それを忘れないでください。

次に、みなさんに中学生のうちに身につけてほしい力があります。それは、自らすすんで「学ぶ力」です。学校に通っている間はもちろん、社会に出てからも自分を高め、支えてくれる、みなさんの成長に不可欠な能力です。しかしきっと多くの人は「学力」=「テストの点数」と思っているのではないのでしょうか。確かにものさしの一つとして、問題が与えられたテストの点数はわかりやすく、目に見える判断材料です。

しかし、得点だけではその人のすべての力を表すことはできません。点数だけにこだわり目の前のテスト、しかも出題されそうなところだけができればよい、という気持ちで答を覚えてただけの人は、その問題の答に丸をもらったという事実が残るだけです。どの教科でもいろいろな単元がつながっていたり、一つ一つのことがらにも理由があって結果があったりします。その考え方を知り、なるほどと思ったり、いろいろ調べて自分の力で同じように考えてみたり、ぜひ勉強のおもしろさや新しいことを知る楽しさ、喜びを味わってほしいと思います。すると次は与えられた問題の答えをただ覚えるだけではもの足りなくなってきました。教わったこと以外にもっといろいろなことに興味を持ち、好奇心に動かされてさらに世界を広げようと行動してほしいのです。これらが自ら「学ぶ力」。皆さんのこれからの成長は、間違いなくこの力によって差が開いていくはずです。

毎日の授業そして行事や部活動等、多くの経験を通じて、自分で考え判断する力や、周囲の人たちと協力しながら実現していく力を身につけましょう。そして将来、いろいろな問題に取り組み、それらを解決できる人になってほしいと願っています。

2.各教科の学習方法

中学国語

1. はじめに

国語は、すべての思考の基本となる「ことば」の力を付け、自分の力で感情を表現し、理解し、論理を組み立てることができるようになるための教科です。そのような力を養うために必要となる漢字・語句などの知識を身に付ける努力を重ねると同時に、様々な文章に触れることでいろいろな人の考えを知り、世界の幅を広げ、じっくりと考え、表現する経験を積んでいくことを心がけてください。

2. 教科書で学ぶ内容

教科書には次のような単元が並び、それぞれの単元には学年に応じた目標が設定されています。ここにはおおよその内容と目標を記してみます。

- ① 随筆 筆者が見たり聞いたりしたことをふまえて、思ったり考えたりしたことを書き表した文章です。主題と文章の展開を把握し、筆者の思いや考え方を正確に取り取ります。
- ② 物語 虚構の物語や小説です。あらすじを正しく追い、場面ごとの情景や登場人物の心情の変化を理解します。
- ③ 説明文 ある事柄について説明した論理的な文章です。全体の主題や段落構成を理解し、筆者の主張やその根拠を読み取ります。
- ④ 詩歌 詩・短歌・俳句・和歌などの古典分野のものも含みます。それぞれの形式や約束事、またさまざまな表現技法を理解した上で、じっくりと鑑賞し、読み味わいます。
- ⑤ 古典 江戸時代までに書かれたさまざまな文学作品や古代中国で書かれた漢文を扱います。現在の日本語では使われなくなった言葉や意味の変わってしまった言葉、あるいは日本古来の伝統文化を知るとともに、昔から変わらない人間の

心情などに触れます。

- ⑥ 表現 様々な文章の書き方、表現のきまりやコツ、またものごとの調べ方や発表のしかたを学びます。
- ⑦ その他 漢字や語句、日本語のきまりに関する知識を身につけます。また、読書案内などのページもあります。

3. 授業の受け方と予習・復習

普段の授業では教科書の単元にしたがって、教材となる文章の読解、表現の練習、知識の習得とその練習などを行います。小学校までの授業と同様、人の話を正しく聞く力、質問にたいしてじっくりと考える力、自分の考えを書く力、他の人にはっきりと伝える力を養うように、意識的に取り組んでください。また、ノートは板書を写すだけではなく、先生の言葉や友だちの意見、あるいは自分が思ったことや気づいたことをたくさん書き記してください。

中学校ではどの教科においても予習と復習が必要ですが、国語の予習はまず音読をすることです。言葉の意味を調べたり、内容について調べたりしたほうがよい場合は、課題として指示されることもあります。一方、復習で最も大切なのも音読をすることです。さらに、復習ではノートのまとめを行ってください。その日の授業で扱った部分の文章を要約したり、構成をまとめなおしたり、授業の中心となった質問に対する答えを作り直したり、新しく学んだ知識をまとめたり、ふり返って見直すべきことはたくさんあります。

4. 身に付ける知識

国語では、ものを考えたり表現したりする前提として、語句の知識を身に付ける必要があります。中学校では教科書に加えて、以下のようなテキストを使って語句の知識を身に付け、視野を広げる努力を重ねます。

- 『漢字練習字典』毎週決められた曜日の朝、漢字テストを行います。中学3年間繰り返し取り組むことで、漢字検定準2級相当までの常用漢字を正確に身に付けます。
- 『中学生の文法』日本語の文法を、2年生までに体系的に学びます。それにより、3年生から学ぶ古典文法をより深く理解することができます。
- 『最新国語資料集』様々な文学作品や作者の紹介、また各時代ごとの文学に関わる知識を紹介。漢字・語句・文法の知識のまとめや、表現のための手引きも充実して

います。

5. より広い教養を身に付けるために

中学校では以下のような試みもしています。積極的に取り組んで自分の世界を広げてください。

- 『図書100選・図書館ガイド』図書館から新入生に配布されます。推薦図書を中心に、卒業までに30冊以上の本を読み、『読書ノート』に読書の記録をつけましょう。
- 『百人一首』1年に50首ずつの和歌を暗誦し、百人一首大会でその成果を競います。

中学社会

1. はじめに

中学校では1年生で地理、2年生で歴史、3年生で公民を勉強します。ここでは最初に皆さんが取り組む地理について説明します。地理についての説明ですが、歴史や公民の分野にも共通する事柄、つまり「中学社会」全体をどうやって勉強していけばよいか?ということが含まれていますので、そのつもりで読んでみてください。

2. 中学社会とは?

皆さんは小学校の間にも社会科の授業を受けてきたと思います。そのときにどんな印象をもちましたか?楽しかったですか。それとも苦手でしたか。それぞれに社会科に対する気持ちがあるとは思いますが。最近ではむしろ不得意だ、嫌いだという生徒が多いように思います。難しく、覚えることが多い。面倒だ。そんな感想をもつ人もいます。

それでも、社会科は勉強する価値があります。それは、社会科こそが世の中のことを知るのに最適な道であることです。世界や日本にはいま、さまざまな問題があります。そのどれもが、待ったなしの、すぐにも取り組まなければならない問題です。また、皆さんにはたくさんの悩

みがあると思います。友人関係であったり、なりたい自分といまの自分の間のギャップだったり。そういった問題に振り回されるのはとても大変ですし、場合によっては自分をダメにしてしまうこともあります。ところが、社会科を勉強していくうちに、自分が直面している問題の正体がわかってきます。よくわからないものに立ち向かうのは怖いですが、正体が分かっているものは怖くもなんともありません。良い知恵もわいてくることでしょう。「世の中を知る」。それが社会科の良いところですよ。

もう一つ、社会科の良いところは、何度でも学び直しができることです。小学校までのことはさっぱり忘れてしまっても、もう一度基本的なことから一つずつ確認していくので、みんな同じスタートラインに立って勉強していくことができます。小学校のときにはあまり社会科が得意ではなかった人でも、もう一度しっかり中学で取り組めば、すぐに勉強ができるようになります。もちろん、得意だった人は中学生になっても楽しく勉強できるでしょう。

3. 中学地理について

先ほど説明したように、中学1年生では地理を勉強します。地理では日本のことだけでなく、世界全体のことを色々な視点で見えていきます。そのためのツールの使い方も学習します。地図の見方や地図帳の使い方などです。一つ一つ丁寧に確認していくので、安心して学習してください。

楽しく勉強していくためにも最も必要な要素、それは「好奇心」です。皆さんは自分の周囲のことだけでなく、日本のこと、世界のことに関心をもっていますか。行ったことのない土地や、見たこともない風景、聞いたことのない言葉に関心はありますか。「好きこそものの上手なれ」とはよく言ったものです。興味・関心のあることはすぐに覚えられますよね。勉強でも、あれは何だろう、もっと知りたいなという好奇心はとても大切です。

そういった好奇心が芽生えてくるためには、何かしらの体験が必要です。実際に日本や世界をあちこちと旅していければよいのですが、中学生の皆さんにはちょっと難しいですね。でも、保護者の方をお願いしてみてください。もう一つ、もっとお手軽な方法があります。テレビやインターネットでは、いまたくさんの旅番組やドキュメンタリー番組が放送されています。日本や世界の各地の自然や風景、さらにはそこに住む人々の食事や習慣など、色々なことが学べます。それを見てワクワクするのも、一つの体験といえるでしょう。だまされたと思って観ているうちに、きっとハマルと思います。

4. 勉強の仕方

では、どうやって地理を勉強すればよいのでしょうか。

(1) 予習

勉強には教科書が欠かせません。授業を受ける前に簡単に教科書を読んでおくと、授業の内容がすっと頭に入ってきます。数学や英語と違って予習に力を入れる必要はありませんが、余裕がある人、あるいは社会に強い興味がある人はやると良いでしょう。

(2) 授業

やはり、社会科は授業が一番大切です。授業では、しっかりと先生の話聞くことを重視してください。ノートを書することに集中するあまり、先生の話聞き逃すことはとてももったいないことです。教科書を読んだだけでは難しくよく分からないことも、先生が要点をおさえて分かりやすく解説してくれています。ときには、教科書に載っていないおもしろい話、大切な話も聞けるでしょう。それでもただ聞いているだけでは、皆さんがおもしろくないですね。授業中でも疑問に感じたことはどんどん質問してください。授業とは先生だけでも生徒だけでも成立しません。ともに協力して作り上げていくものです。

(3) 復習

その日のうちに、ワークなどを使って授業内容を復習できればベストです。ただ、英語や数学の予習・復習が大変で、社会科まで勉強できないという声をよく聞きます。そんな人には、授業が終わった後の休み時間に、簡単な復習をすることをおすすめします。授業が終わったら友達とおしゃべりをする前に、1分間だけノートを読み返してください。「今日は何を勉強したんだっけ？ あ、アメリカの農業だったっけ。そうそう、アメリカではたくさん農作物を生産していて、とくにトウモロコシ生産は世界一だったな」なんて思いながらノートをさあーと読み返すだけで、授業内容が頭にインプットされます。ぜひお試しあれ。

(4) テスト

中学校ではテストは小学校のときよりもずっと難しくなります。また、覚える量も増えます。そこで、テスト勉強は本当に真剣に取り組まなければなりません。遅くとも2週間前から始める必要があります。まずテスト範囲を確認して、何を勉強しなければならないか、ざっと確認しましょう。それから残りの日数を計算に入れながら、学習計画を立てて、毎日少しずつ取り組むようにしましょう。

ときどき一夜漬けで勉強する生徒がいますが、これはまったく意味がありません。一夜漬けの勉強で得た知識は「短期記憶」といってテストが終わったらすぐに忘れてしまうものです。コンピュータでいえば「一時保存」のフォルダみたいなものです。定着してすぐには忘れない知識を「長期記憶」といいますが、そうなるためには繰り返し覚えるという作業が必要になります。何度も何度も繰り返し覚えようとする、「一時保存」のフォルダから「永久保存」のフォルダに移るそうです(人間の脳って不思議ですね)。したがって、毎日少しずつでよいから繰り返し学習して覚えようとするのは、非常に理に適っているのですね。

5. おわりに

色々説明してきましたが、私たち教員が最も切に願っていることは、社会科はおもしろい、社会科を好きになってほしいということです。社会科で勉強したことが、少しでも皆さんが生きる糧になってくれればと思い、毎日の授業をおこなっています。だから、皆さんも社会科の学習には真剣に、しかし楽しく取り組んでほしいと思います。

中学数学

小学校までの「算数」はこれから「数学」と名前が変わります。

値段や時間、速さ、面積、体積、割合などいろいろな値の意味を知り、計算することが主だった算数の「算」から学問の「学」という文字に置き換えられています。答えを求めることだけが目的ではありません。もっと深くなぜそうなるのか考え、いろいろな性質を自分で見つけ出し、それが正しいと示すにはどうしたらよいかなども学ぶ教科に変わります。

ですから中学生の皆さんは、まず「答えの出し方だけ覚えても数学の実力はつかない」ということをしっかり理解して下さい。

さて、ここからは具体的な学習の取り組み方について説明します。

1. 授業の時の先生の説明はしっかり聞く。

やり方を知っているだけなのにいい加減なところでわかった気になっていて、その後に

つながる大事な考え方を理解していないと、つまずきの原因になります。

このケースは多いです。油断大敵。

2. 必ず自分の頭で考えてみる。

よく、宿題の問題を難しいから、といって解答を見ながらやっている人がいます。限られた時間の中で見ることもあるでしょうが、まず自分で考えることを習慣づけないと、どんどんできなくなっていくます。もし教えてもらったり答えを見たときは、もう一度何も見ないで自分でやってみましょう。

3. わかったと思ったら反復練習を。

運動や習い事と同じです。繰り返すことで早さと正確さが身につき、さらに上のステップに余裕を持って進むことができるようになります。レベルを上げるためには、それまでやったことがやさしく感じられるくらい、確実に身につけていることが必要です。毎日続ければそれができて当たり前になっていきます。

4. 友達と教えあう。

2. と矛盾するようですが、難しく困っている人が納得するように教えることは、自分がよほどよく理解していないとできません。これができると自分もさらによくわかり、どんどん楽しく勉強できるようになります。つまり自分のためでもあるのです。教わる側は上の 2. が大切です。しかし、ただ答えをなぞっただけでお互いわかった気分になっているとしたら...

この先のゆくえはわかりますね？

中学理科

理科は好きですか。

ミノムシがみのをつくるようすに心奪われたことがありますか。海の青さに感動したことがありますか。宇宙がどのようにできたのか考えたことがありますか。

とても不思議なこの世界を理解するために科学は発展してきました。必要なのは、まずはさまざまな現象を不思議だなあ、と思う心。そして、実験や観察とその後の考察。それらが好きなら、きっとあなたは理科を好きになれます。まずは好きになりましょう。

次に、理科を得意になりましょう。「好き」と「得意」は少し違いますね。得意になるためには、基本的な計算力と記憶力が必要です。算数を道具として使えないと、答にたどり着かないことがあります。また、すでに正しいとされていることをある程度は覚えないと、そこから先に進めないことがあります。

計算と記憶を用いて、科学的にものをとらえるようになりましょう。今、目の前で起こっていることを説明できるように努力しましょう。多くの自然現象には理由があります。論理的(結論を出すのに筋道がはっきりしているようす)に説明できるようになれば、理科の勉強ができるようになるだけでなく、きっと君たちが生きてゆくのに役立ちます。

最後に。これはとても難しいことですが、ここまでの事を理解した上で、常識とされることを疑ってみましょう。結局は、あなたが世界に対しどのように接してゆくかが大事なのです。あなたは何者なのか、あなた自身が知ることが勉強なのです。自然を知り、世界を知り、自分を知りましょう。それが学ぶ心です。面白く生きましょう。

中学英語

「言葉は音」

(無理だとは思いますが)自分が2、3歳だった頃を思い出してください。皆さんは、「あ」という文字と音、どちらを先に覚えましたか？ほとんどの人が「音」を先に記憶したはずです。2、3歳のときからノートに「あ、あ、あ、あ、あ…」と何十回も書きとりの練習をした人は(たぶん)いません。お父さんやお母さんに「赤色のアだよ」とか、「アンパンマンのア」などと教えても

らいながら、それを真似して少しずつ「アという音」を身につけたでしょう？

中学校から始まる英語も、音声習得については同じです。日本語と英語とでは、口の開き方や舌の動かし方、顔の筋肉の使い方も違います。先生の発音や CD をよく聴いて、真似をしてください。日本人は日本人らしく英語を発音すればいい、などと開き直るのは二十歳を過ぎてからにしましょう。最初のうちは、とにかく真似をしてみることです。2、3歳の幼児のように。音に慣れてきたら、文字(アルファベット)や、音と文字の関係(フォニックス)を学んでいきましょう。

「言葉は道具」

言葉は人間にとって、欠かすことのできない「道具」です。自分の気持ちや主張を正確に伝えたり、誰かの意見や社会の出来事を深く理解したりするための道具です。もちろん、道具なんて使えればそれでよいと考えるかもしれませんが、しかし、サビだらけの包丁で魚をさばくのは気分が悪いし、こぐたびにチェーンの外れる自転車が不便なのと同じで、言葉という道具も放っておくとボロボロになってしまいます。言葉にも手入れが必要なのです。

中学校では、英語のルール(文法)を整理して、知っている言葉の数(語い)を増やししながら、複雑な気持ちとか難しい意見も理解できるように、皆さんの英語の手入れをしていきます。授業は手入れの方法を学ぶ場です。ただし、磨いたり削ったりたたいたりして、「英語という道具」を手入れするのはあなた自身です。包丁や自転車ならば、お金だけ払って「あとはよろしく」で片付きますが、言葉は、それを使う本人が大切に手入れすることを忘れてはいけません。

「言葉は窓」

想像してください。もしあなたが、ひとつも「窓」のない家に閉じ込められたとしたら...。何も見えないし、息はつまりそうだし、恐怖で助けを叫びたくなるかもしれません。真っ暗な家のなかに光を入れるためには、とにかく「窓」が必要です。窓があれば風通しも生まれます。窓の外の風景を眺めたり、ときには窓越しに外を歩く人たちと会話を楽しんだりして、窓のない家に比べたら、はるかに生活が快適になるでしょう。

言葉を失った状態とは、ちょうど、真っ暗な家のなかにひとり取り残されるようなものです。家の内と外をつないでくれる「窓」のように、暗闇にいる自分を外の世界とつないでくれるのは

「言葉」です。まず皆さんは、日本語というひとつ目の窓を手に入れる必要がありますが、できれば窓はいくつかほしいものです。違った角度から陽があたるし、見える景色も色々だし、何よりも家の外にいる人たちとのコミュニケーションが豊かになるからです。

日本語だけで十分なんて言わないでください。それでは、小さな窓がひとつしかない家の住人です。寂しいし、不便だと思いませんか？ 英語がふたつ目の窓になるように、ともに学んでいきましょう。